

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00869

研究課題名（和文）CEFR上位者のアカデミック・ライティングのストラテジー調査と検証法の確立

研究課題名（英文）Investigating the Use of Strategy and Developing Research Methods for Academic Writing of Higher Levels of CEFR

研究代表者

中谷 安男（Nakatani, Yasuo）

法政大学・経済学部・教授

研究者番号：90290626

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、多くの研究者が活用して成果を上げている効果的なストラテジーを正確に抽出し、AWS（Academic Writing Strategy）を体系的に整理するという独自の研究である。特に、執筆者が報告するAWSと、実際の彼らが書いた論文に出現するAWSを比較するというこれまでない試みを行った。またこの比較検証から抽出されたAWS項目の使用頻度を、多くの被験者に質問紙形式で回答を求め、結果を因子分析で解析し、信頼性と妥当性のある手法でAWSIを構築した。これにより学習や指導の目標設定を容易にし、英語論文などの執筆の改善に活用を目指すことが可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

CEFRのCレベルは、英語で学術研究活動を効果的に行う者であり、AWSを駆使する能力も持つと定義されている。だが、CEFRでは実際の学術論文等でAWSを活用し、効果的に学術雑誌の査読者や編集者を説得する方略に関する具体的な報告はなく、その正確な調査方法も確立されていない。本研究は検証の妥当性を高めるためAWS使用に関する詳細なインタビュー調査を実施した。これらを文書化したコーパスデータと、実際に執筆された論文のコーパスの比較検証を行った。この結果抽出された妥当性のあるAWSを基に、信頼性の高い調査用紙を統計的手法で構築したAWSIにより効果的なAWSを正確に把握することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：This study is a unique research endeavor that accurately extracts effective strategies that many researchers have utilized to achieve results and systematically organizes them into Academic Writing Strategies (AWS) within the context of AWS. In particular, this attempt to compare the AWS reported by the authors with the AWS appearing in the actual papers they wrote is unprecedented. Furthermore, the frequency of use of the extracted AWS items from this comparative validation was analyzed through a questionnaire administered to a large number of participants, and a reliable and valid method of constructing AWSI was achieved through factor analysis. This creative approach enables easy goal setting for learning and instruction and aims to improve writing, such as English papers.

研究分野：応用言語学

キーワード：Academic Writing AWSI CEFR Factor Analysis Corpus Linguistics

## 1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for languages; 以下 CEFR) の活用は近年日本でも重要視されている。上位 C レベル(C: Proficient User) は英語で学術研究活動を効果的に行う者であり、AWS を駆使する能力も持つと定義されている。だが、CEFR では実際の学術論文等で AWS を活用し、効果的に学術雑誌の査読者や編集者を説得する方略に関する具体的な報告はなく、その正確な調査方法も確立されていない。

これまでアカデミック・ライティング分野の多くの研究は、学術論文の構成の分析が主である(例 Nakatani, 2017)。また、その結果に基づく指導方法の提案も行われてきた(例中谷, 2016)。ところが、実際に CEFR 上位レベルの研究者などが執筆をする際に、どのような具体的なストラテジーを活用しているのか十分な検証は行われていない。このため、どの AWS(Academic Writing Strategies)を、いかに、どのような理由で効果的に使うべきなのかは明らかにされていない。現状は、それぞれ個人が経験によって得た知識を基に論文を執筆しており、有効な AWS は広く十分に共有されていない状況であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、このような状況において、多くの研究者が活用して成果を上げている効果的なストラテジーを正確に抽出し、AWS を体系的に整理するという独自の研究である。特に、執筆者が報告する AWS と、実際の彼らが書いた論文に出現する AWS を比較するという試みはこれまでない。またこの比較検証から抽出された AWS 項目の使用頻度を、多くの被験者に質問紙形式で回答を求め、結果を因子分析で解析し、信頼性と妥当性のある手法で AWSI を構築する。これにより学習や指導の目標設定を容易にし、英語論文などの執筆の改善に活用を目指すという創造的な取り組みである。

## 3. 研究の方法

研究領域の課題点に注目し AWS を正確に把握できる妥当性と信頼性の高い調査用紙 AWSI (Academic Writing Strategy Inventory) の開発を目指す。これが構築されれば、学術論文執筆の効果的なストラテジーが明確になり、多くの学習者や若手研究者に明確な到達目標が提示できる。さらに AWSI をライティングの授業などに導入し、LS の診断や目標設定が可能になる。これにより、学習者がまだ十分習得できていない AWS が明示でき、改善すべき項目も明らかになる。このために具体的に以下のような研究手法を実施した。

### 3.1 検証の妥当性を高めるため AWS 使用に関する詳細なインタビュー調査

国際ジャーナルに採択経験を持つ 60 名の研究者を選び WS を調査する。研究代表者と分担者で自然科学、社会科学、人文科学の各分野 20 名に論文執筆に有効な AWS の認識についてインタビュー調査を行った。この際、自由記述でも同様の回答を得ておいた。それぞれ 1 時間の報告内容を録音し文書化して、AWS に関する主要な認識概念を抽出した。

### 3.2 英語学術論文における AWS 抽出

上の研究者が執筆した論文 1100 本を収集しコーパスデータとして活用し、効果的な AWS の種類や頻度をコーパス分析ソフトで抽出した。この結果をインタビューのコーパス分析と比較し、AWS の使用認識と実際の論文での活用を確認した。この中で両方の結果が一致したものを中心に AWS の基礎項目として選定した。

### 3.3 Academic Writing Strategy Inventory (AWSI) の構築

上の結果により導き出された AWS を、調査用紙の予備質問項目として作成し、リカートのタイプの質問紙を作った。回答はすべて Google Form で回収した。

100 人の英語アカデミック・ライティング経験者に試行し、1 次的な因子分析を行い、他の項目と整合性の低い項目を削除した。この結果得た質問項目を整備し、182 名に調査を行い、最終的な因子分析で信頼性及び妥当性の高い調査用紙 AWSI を構築した。このような過程を経て、広く大学及び研究所で論文執筆に効果的に活用できる AWSI を完成させた。

## 4. 研究成果

#### 4.1 初期質問紙用紙の作成

3の研究手法のインタビュー調査及びAWSの抽出により、検証に適切だと思われる下図1のような45の質問項目を構築できた。

図1 初期検証の45項目の質問

質問内容	回答
1 書き始める前に内容の構成を考える	
2 同僚や査読者が読むことを意識して書く	
3 読む人にわかりやすく伝わるように書く	
4 主語と動詞の一致に気をつける	
5 納得いくまで書き直す	
6 スペルや語彙の間違いないように見直す	
7 たくさん書く練習をする	
8 書き方がうまくなっているか自分で確認する	
9 提出する前に何度も見直しをする	
10 複数形や単数形動詞の時制などに気をつけて書く	
11 読みやすい英文を心掛ける	
12 新しく覚えた単語や表現を使うようにしている	
13 同じ語彙を繰り返し使わず別の表現を使う	
14 できるだけ多様な文体で書く	
15 文と文がつながるように書く	
16 書く前に日本語で大まかな考えをまとめる	
17 接続詞やつなぎ言葉を効果的に使う	
18 最初に日本語で考えて英文に訳す	
19 冠詞の使い方に気をつけて書く	
20 文章に流れができるように書く	
21 助動詞を効果的に使う	
22 評価基準を意識して書く	
23 書き方が分からない時は指導者や同僚の助けを求める	
24 先行研究の書き方を参考にする	
25 ネットの翻訳機能やソフトを使う	
26 リラックスして楽しむように書く	
27 あまりミスを気にせずできるだけたくさん書く	
28 自分の経験や体験を活用して書く	
29 文章の意味が伝わるかよく見直す	
30 辞書やネットで書き方を調べる	
31 先行研究の問題点を意識して書く	
32 読み手が興味を持つように書く	
33 できるだけ多くの先行研究を参照して書く	
34 書いた内容のフィードバックをもらうようにしている	
35 書く目的をよく考えて取り組む	
36 できるだけ短い文章で書く	
37 伝えたい内容を明確に書く	
38 一貫性のある文章を書く	
39 最初に結論を書く	
40 具体例や具体的数字を活用して説明する	
41 効果的なトピックセンテンスを書く	
42 読者を説得できるように書く	
43 論理的な構成になるように書く	
44 あせらずゆっくと時間をかけて書く	
45 文法や語順に気をつけて書く	

上の各質問に、次の中から最も適切な回答を選び番号を入れてください。

- 5 とてもよくあてはまる 4 よくあてはまる 3 ややあてはまる  
2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

#### 4.2 初期の因子分析

被験者に回答をしてもらった結果を因子分析にかけ、該当する質問項目を選定した。この

際、以下の手法で行った。被験者の回答を Excel 活用の統計ソフト HAD に入力し被験者の回答結果の分析を行った。因子分析の抽出方法は 最尤法で、回転方法はバリマックス回転を行った。それぞれの項目の因子負荷量を調べ、他の項目と相関関係の低いもの、及び負荷量の低い項目を削除し、最終的に 38 項目を精選し、アカデミック・ライティングに関する調査用紙を作成した。削除した 7 の項目は、因子負荷量が低いため今回の調査目的に適切とは言えないものであった。

#### 被験者の属性

- ・性別：男性が 59.9% で女性が 38.5% で、無回答が 0.6% であった。今回の調査では男性が約 6 割を占めている。

- ・専攻分野：専攻分野は人文科学が 48.2% と約半分を占めた。社会科学が 24.2% で自然科学が 6.6% でその他の理系分野が 23.1% となった。

### 4.3 因子分析結果

被験者 182 名に対して 38 項目の質問に 5 段階のリッカートタイプで回答を求めた。

因子分析の抽出方法は 最尤法で、回転方法はバリマックス回転を行った（反復回数 = 10, 収束基準 = 0.0001）。成果として図 2 のような抽出結果を得た。

図 2 アカデミック・ライティングストラテジー抽出結果

項目	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8	Factor9	共通性
38 一貫性のある文章を書く	.693	.176	.096	.286	.188	.119	.042	-.066	.033	.659
37 伝えたい内容を明確に書く	.652	.158	.064	.168	.183	.208	.127	.010	.115	.589
20 文章に流れができるように書く	.516	.188	.412	.259	.246	.076	.062	-.067	.012	.614
43 論理的な構成になるように書く	.509	.304	.283	.115	.102	.461	.002	-.024	-.131	.686
35 書く目的をよく考えて取り組む	.473	.338	.217	.007	.159	.236	.179	-.062	.220	.550
11 読みやすい英文を心掛ける	.399	.124	.227	.327	.238	.268	.220	.018	-.019	.511
33 できるだけ多くの先行研究を参照して書く	.060	.814	.047	.105	.167	.148	.098	-.063	.074	.748
31 先行研究の問題点を意識して書く	.233	.741	.123	.105	.019	.149	.132	-.062	.007	.673
24 先行研究の書き方を参考にする	.191	.688	.303	.013	.240	.044	.061	-.020	-.066	.669
34 書いた内容のフィードバックをもらうようにしている	.172	.538	.037	.077	.254	.022	.292	.069	.177	.513
13 同じ語彙を繰り返し使わず別の表現を使う	.177	.101	.666	.168	.088	.143	.063	-.122	.033	.561
14 できるだけ多様な文体で書く	.031	.112	.514	.138	.135	.299	.103	.005	.282	.495
19 冠詞の使い方に気をつけて書く	.117	.337	.472	.289	-.014	.111	.161	.088	.160	.506
12 新しく覚えた単語や表現を使うようにしている	-.033	.124	.434	.126	.088	.107	.285	-.146	.299	.432
17 接続詞やつなぎ言葉を効果的に使う	.261	.032	.426	.092	.176	.108	.110	.030	.096	.324
21 助動詞を効果的に使う	.180	.263	.418	.252	.135	.183	.169	.038	.227	.474
15 文と文がつながるように書く	.381	.082	.394	.369	.224	.067	.112	-.079	-.013	.517
10 複数形や単数形動詞の時制などに気をつけて書く	.115	.158	.144	.809	-.045	.028	.169	.020	.039	.746
4 主語と動詞の一致に気をつける	.158	.031	.222	.631	.201	.102	.054	-.078	-.046	.536
6 スペルや語彙の間違いないように見直す	.306	-.008	.112	.504	.273	.147	.139	.020	.037	.478
45 文法や語順に気をつけて書く	.242	.073	.305	.451	.143	.285	.085	-.098	.082	.486
2 同僚や査読者が読むことを意識して書く	.111	.287	.171	.059	.656	.187	.141	-.005	-.064	.617
3 読む人にわかりやすく伝わるように書く	.361	.194	.188	.206	.558	.221	.069	-.022	-.035	.613
29 文章の意味が伝わるかよく見直す	.358	.126	.175	.299	.529	.225	.164	-.050	.178	.656
1 書き始める前に内容の構成を考える	.349	.132	.109	.073	.453	.113	-.042	.109	-.031	.389
9 提出する前に何度も見直しをする	.197	.144	.055	.366	.450	.114	.316	-.034	-.005	.514
41 効果的なトピックセンテンスを書く	.158	.078	.156	.154	.205	.774	.146	.058	.130	.762
42 読者を説得できるように書く	.290	.234	.236	.062	.299	.649	.149	.021	.069	.736
40 具体例や具体的な数字を活用して説明する	.300	.154	.251	.185	.102	.491	.096	-.027	.049	.474
8 書き方がうまくなっているか自分で確認する	.115	.164	.093	.115	.107	.063	.739	.143	.137	.663
7 たくさん書く練習をする	.023	.138	.200	.146	.047	.140	.676	.015	.162	.586
5 納得いくまで書き直す	.325	.150	.176	.213	.175	.123	.454	-.146	-.019	.478
16 書く前に日本語で大まかな考えをまとめる	-.050	-.074	.049	.010	.060	.062	.022	.888	.020	.807
18 最初に日本語で考えて英文に訳す	-.088	-.096	-.039	.077	-.003	-.022	.005	.809	.115	.694
25 ネットの翻訳機能やソフトを使う	.042	.067	-.073	-.071	-.024	.001	.036	.454	.120	.239
28 自分の経験や体験を活用して書く	.083	-.125	.104	.073	.063	.166	.022	.144	.647	.510
27 あまりミスに気にならずできるだけたくさん書く	.013	.082	.149	-.089	-.103	-.089	.036	.072	.627	.455
26 リラックスして楽しむように書く	.018	.183	.048	.062	.006	.092	.317	.175	.612	.554
因子寄与	3.192	2.950	2.655	2.636	2.277	2.256	1.972	1.865	1.710	

因子得点の高い項目として 9 つの因子が得られた。それぞれの項目を確認し、以下のようなストラテジーと命名した。

- A：一貫性・結束性構築ストラテジー，
- B：先行研究レビューストラテジー，
- C：効果的ディスコースストラテジー，
- D：エラー回避ストラテジー，
- E：読者中心ストラテジー，
- F：説得ストラテジー，
- G：自己トレーニングストラテジー，
- H：母語依存ストラテジー，
- I：自己肯定ストラテジー

#### 4.4 AWSI (Academic Writing Strategy Inventory)

以上のことから、英語でアカデミック・ライティングを行う者は、このような9つのAWIを駆使して論文などを執筆していると考えられる。

この結果を基に、ストラテジーごとをまとめた以下のような図3のAWSIが完成できた。

図3 AWSI(Academic Writing Strategy Inventory)

英語アカデミック・ライティングを行う時に以下の項目であてはまる数字に をして下さい。

- 5 とてもよくあてはまる 4 よくあてはまる 3 ややあてはまる  
2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

因子	項目	5	4	3	2	1
A	1 一貫性のある文章を書く					
	2 伝えたい内容を明確に書く					
	3 文章に流れができるように書く					
	4 論理的な構成になるように書く					
	5 書く目的をよく考えて取り組む					
	6 読みやすい英文を心掛ける					
B	7 できるだけ多くの先行研究を参照して書く					
	8 先行研究の問題点を意識して書く					
	9 先行研究の書き方を参考にする					
	10 書いた内容のフィードバックをもらうようにしている					
C	11 同じ語彙を繰り返し使わず別の表現を使う					
	12 できるだけ多様な文体で書く					
	13 冠詞の使い方に気をつけて書く					
	14 新しく覚えた単語や表現を使うようにしている					
	15 接続詞やつなぎ言葉を効果的に使う					
	16 助動詞を効果的に使う					
	17 文と文がつながるように書く					
D	18 複数形や単数形動詞の時制などに気をつけて書く					
	19 主語と動詞の一致に気をつける					
	20 スペルや語彙の間違いないように見直す					
	21 文法や語順に気をつけて書く					
E	22 同僚や査読者が読むことを意識して書く					
	23 読む人にわかりやすく伝わるように書く					
	24 文章の意味が伝わるかよく見直す					
	25 書き始める前に内容の構成を考える					
	26 提出する前に何度も見直しをする					
F	27 効果的なトピックセンテンスを書く					
	28 読者を説得できるように書く					
	29 具体例や具体的数字を活用して説明する					
G	30 書き方がうまくなっているか自分で確認する					
	31 たくさん書く練習をする					
	32 納得いくまで書き直す					
H	33 書く前に日本語で大まかな考えをまとめる					
	34 最初に日本語で考えて英文に訳す					
	35 ネットの翻訳機能やソフトを使う					
I	36 自分の経験や体験を活用して書く					
	37 あまりミスを気にせずできるだけたくさん書く					
	38 リラックスして楽しむように書く					

#### 4.5 まとめ

以上の結果から学術論文執筆の効果的なストラテジーが明確になり、多くの学習者や若手研究者に明確な到達目標が提示できる。さらにAWSIをライティングの授業などに導入し、LSの診断や目標設定が可能になる。これにより、学習者がまだ十分習得できていないAWSが明示でき、改善すべき項目も明らかになる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 第80号
2. 論文標題 国際ビジネスジャーナルの Abstract の Move -英文でいかに査読者と交渉するべきか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報	6. 最初と最後の頁 3-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 88(4)
2. 論文標題 グローバルリーダーによるコミュニケーション・ストラテジーの検証：オックスフォード・ユニオンとチャーチル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 173-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 89(1)
2. 論文標題 ディベートにおけるコミュニケーション戦略：オックスフォード・ユニオンとグラッドストンの分析事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 87/ 3・4
2. 論文標題 経済学・経営学分野の論文におけるCritical Reviewの方法とLiterature Reviewの書き方に関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 11-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 88/ 1・2
2. 論文標題 オックスフォード大学におけるリーダーシップの学び方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 97-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 88/ 1・2
2. 論文標題 オックスフォード・ユニオンと大学のディベート組織におけるエスノグラフィー調査：世界のリーダーを輩出するシステム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 125-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 89/ 4
2. 論文標題 途上国の水環境改善事業の一考察：ヤマハ発動機クリーンウォーターシステムの事例報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 533-557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 69/ 4
2. 論文標題 経営学系の国際ジャーナルにおける研究価値の訴求方法 -Literature Reviewの多量言語コーパス・データ分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営論集	6. 最初と最後の頁 81-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷安男	4. 巻 81
2. 論文標題 CEFR上位者のビジネスライティングにおける効果的なコミュニケーション戦略の検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際ビジネスコミュニケーション学会研究年報	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 オックスフォード大学から学ぶSDG s 教育
3. 学会等名 JACET中部支部第1回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 オックスフォード世界最強SDG s リーダーシップ教室：超一流の思考力・交渉力・人脈はこうして作られる
3. 学会等名 JBCA関東支部会2021年4月 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 経済学・経営学の英語論文の書き方
3. 学会等名 広島大学ライティングセンターセミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ビジネスライティングにおける効果的なコミュニケーション戦略の検証
3. 学会等名 第81回国際ビジネスコミュニケーション学会全国大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 持続可能な開発目標（SDGs）の課題を活用する説得力のある英文ライティングを目指した授業
3. 学会等名 JACET 60th International Convention（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 オックスフォード大学のビジネスリーダーシップ教育：ロールモデルによる思考力・交渉力・人脈の育成
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会第28回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 オックスフォード・ユニオンにおけるリーダーシップ育成の示唆：英語圏のリーダーのコーパス分析
3. 学会等名 英語コーパス学会第47回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 英語ライティング授業における持続可能な開発目標 (SDGs) の活用方法
3. 学会等名 言語教育エキスポ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する課題の英語ライティング授業での導入方法
3. 学会等名 第 3 回 JAAL in JACET
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 経営学系の国際ジャーナルにおける研究価値の訴求方法：多量言語コーパスデータ分析による示唆
3. 学会等名 第27回国際ビジネス学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 国際ビジネスジャーナルの Abstract の Move 分析 - 英文でいかに査読者と交渉するべきか
3. 学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会80回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 経済学国際ジャーナルにおける Method の章のコーパス分析
3. 学会等名 英語コーパス学会第 46 回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 英文パラグラフにおける一貫性構築の指導 持続可能な開発目標(SDG s)タスクによる語彙の多様性構築
3. 学会等名 第13回(2020年度)JACET関東支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 オックスフォード大学と持続可能な開発 目標 (SDGs) : 英語 4 技能試験に向けたライティング指導の示唆
3. 学会等名 2020年度JACET関東支部・東洋大学共催企画(第1回)講演会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ディベート・トレーニングの導入案: オックスフォード・ユニオンの示唆
3. 学会等名 JACET北海道支部 2022(令和4)年度支部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ディベートを日本の大学教育に取り入れる示唆 オックスフォード・ユニオンの事例研究
3. 学会等名 第 15 回(2022 年度)JACET関東支部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 欧米のリーダーはどのような英語で交渉を行い、人々を説得しているのか：世界最大のディベート組織オックスフォード・ユニオンからの示唆
3. 学会等名 第226回東アジア英語教育研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 ディベートを日本の大学英語教育に導入する示唆 世界最大のディベート組織オックスフォード・ユニオン関連のコーパス分析
3. 学会等名 The 61st JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 男性リーダーの発話データの特徴分析：オックスフォード・ユニオン 及び TED Talk 分析の示唆
3. 学会等名 英語コーパス学会 第 48 回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷安男
2. 発表標題 女性リーダーのコミュニケーション戦略：オックスフォード・ユニオン及びTED Talk分析の示唆
3. 学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会第82回全国大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Yasuo Nakatani and Ryan Smithers	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kinseido	5. 総ページ数 118
3. 書名 Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan	

1. 著者名 中谷安男	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 208
3. 書名 オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室：一流の思考力・交渉力・人脈はこう作られる	

1. 著者名 中谷安男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央経済出版社	5. 総ページ数 238
3. 書名 経済学・経営学のための英語論文の書き方：アクセプトされるポイントと戦略	

1. 著者名 中谷安男 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 254
3. 書名 教材・テスト作成のためのCEFR-Jリソースブック	

1. 著者名 Nakatani Yasuo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Kinseido	5. 総ページ数 132
3. 書名 Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals	

1. 著者名 Suga Mikio & Nakatani Yasuo et. al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pte Ltd	5. 総ページ数 524
3. 書名 Advanced Studies in Classification and Data Science	

1. 著者名 Yasuo Nakatani & Ryan Smithers	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Kinseido	5. 総ページ数 144
3. 書名 Global Business Case Studies	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	水本 篤  (Mizumoto Atsushi)  (80454768)	関西大学・外国語学部・教授     (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関